

平成 15 年度「学生による授業評価」結果について 講義科目（学士課程教育）の全体集計報告

長崎大学では平成 14 年度より、学士課程教育の講義科目を対象とした「学生による授業評価」を大学全体で実施しているが、平成 15 年度は演習等を含めた全ての授業を対象として実施した。

本報告ではこのうち、学士課程レベルの講義科目を対象とする「学生による授業評価」結果の全体的傾向について述べる。これらのクラスには全学的に共通する 10 の評価項目が設けられており（注 ）、946 クラスで授業評価が行われ（実施率は 53.1%）（注 ）、48,206 枚の評価シートが回収された。

1. 全体集計

図 1 には単純集計結果を、表 1 および図 2 にはクラス単位で肯定評価度（「そう思う」あるいは「強くそう思う」と回答した学生の割合）を算出した場合の全体傾向を示す。両者から、評価の高い項目として、「シラバス」と「教員の熱意」があげられる。また、総合評価となる「総合的に見て、この授業は自分にとって価値があった」の項目でも、高い評価が得られている点は特筆すべきである。一方、「学生参加」、「助言・相談」、および「わかりやすさ」については比較的评价が低く、また、クラス間の差も比較的大きかった。

なお、図 3 に示すように、平成 14 年度の授業評価でも 15 年度と同様の結果が得られている。

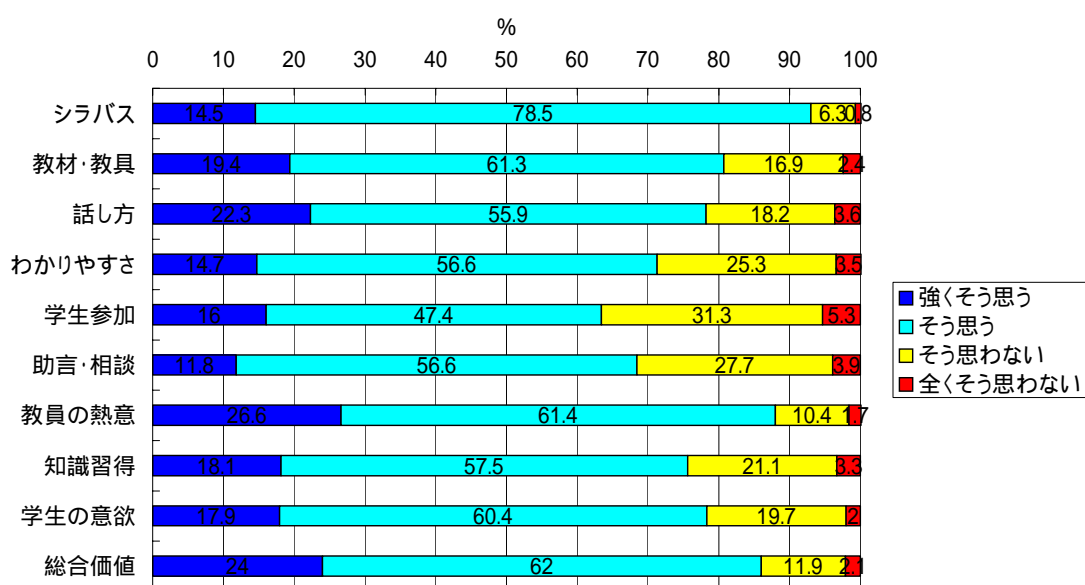
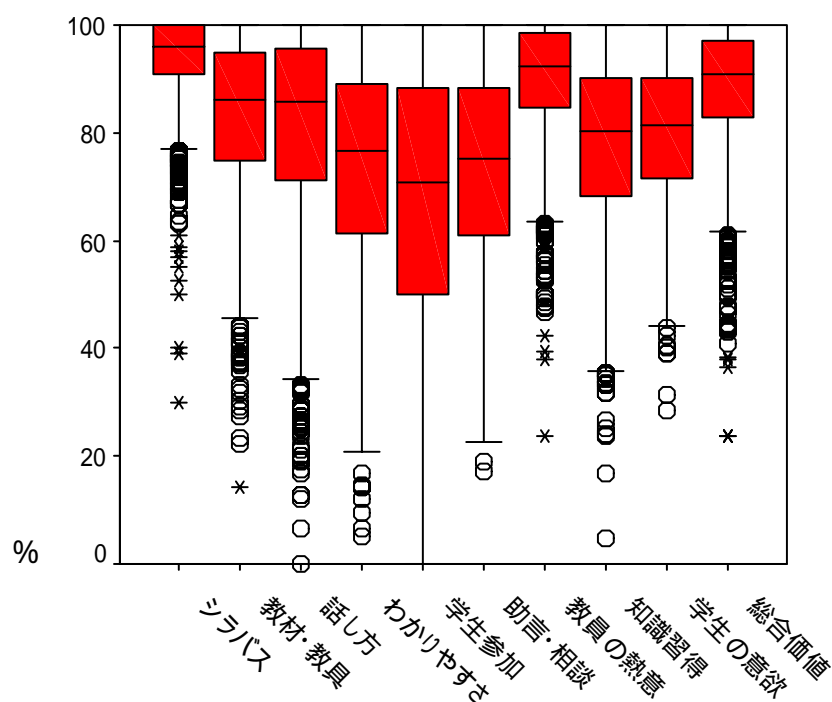


図 1 全体集計結果

表1 クラス集計結果

	最小値	最大値	平均値	標準偏差
シラバス	30.0	100.0	93.44	8.48
教材・教具	14.3	100.0	82.67	15.62
話し方	.0	100.0	80.19	19.79
わかりやすさ	5.0	100.0	73.19	19.81
学生参加	.0	100.0	68.11	23.91
助言・相談	17.1	100.0	73.24	18.79
教員の熱意	23.8	100.0	89.35	11.67
知識習得	4.8	100.0	78.03	16.26
学生の意欲	28.6	100.0	80.26	13.13
総合価値	23.8	100.0	87.70	12.42

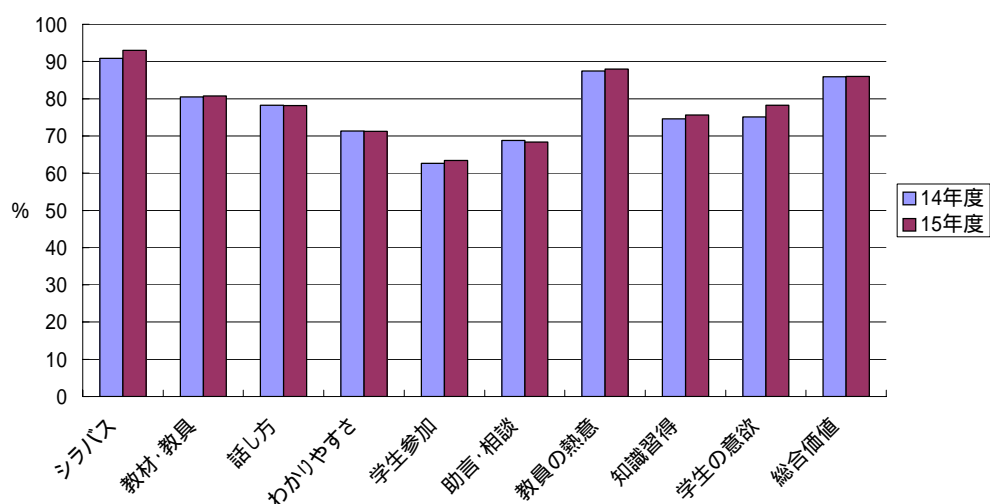
各クラスの肯定評価度（「そう思う」「強くそう思う」と回答した学生の割合(%)）について算出
 度数（クラス数）は946



中央値、四分位値（箱の上端と下端）、外れ値（箱の長さの1.5倍から3倍の間にある 値）、および極値（*で示された箱の長さの3倍より大きい値）を示す

各クラスの肯定評価度（「そう思う」「強くそう思う」と回答した学生の割合）について算出
 度数（クラス数）は946

図2 クラス集計結果



「そう思う」「強くそう思う」と回答した学生の割合を示す

図3 平成14年度と15年度の集計結果比較

2. 「総合価値」とその他の評価項目の関係

「総合価値」を高める授業のあり方を探るため、「総合価値」について肯定的評価を（「そう思う」あるいは「強くそう思う」と回答）したグループと、否定的評価を（「そう思わない」「全くそう思わない」と回答）したグループに分け、～までの各項目についての肯定評価度（「そう思う」あるいは「強くそう思う」と回答した学生の割合）を比較した（図4）。前者の回答者数は41,153人、後者は6,683人である。

比較の結果、全ての項目について前グループの肯定評価度が高く、各項目の内容が学生にとっての価値ある授業と関係していることがうかがえた。なかでも、「知識習得」についての差が大きく、新しい知識等を習得できたかどうか価値ある授業にとって重要な条件となっていることが考えられる。また、「学生の意欲」や「わかりやすさ」についても比較的大きな差がみられた。

3. クラスサイズ別評価結果

次に、サイズの異なるクラス間で評価結果を比較する。評価シートの回収枚数をもとにクラスサイズを11に分け、項目～の肯定評価度を示したものが図5である。

比較の結果、20人以下の少人数クラスでは高い評価結果が得られていること、80人を超えるクラスではそれより人数のクラスと比べてやや低い評価結果となっていることがわかった。しかし、200人を超える大規模クラスでは逆に高い評価結果を示していた。このカテゴリーに含まれるクラスは3つしかないので一般化はできないが（注）、大規模クラスでも評価の高い授業が成立することがわかった。その他、項目によってクラスサイズの影響

度が違うこともうかがえた。

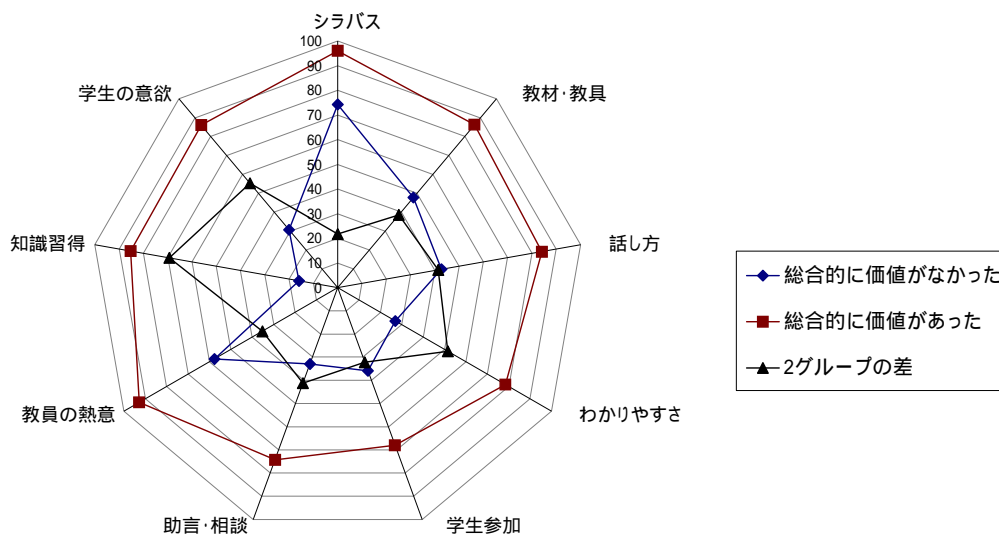


図4 肯定評価度の比較（「総合評価」の結果別）

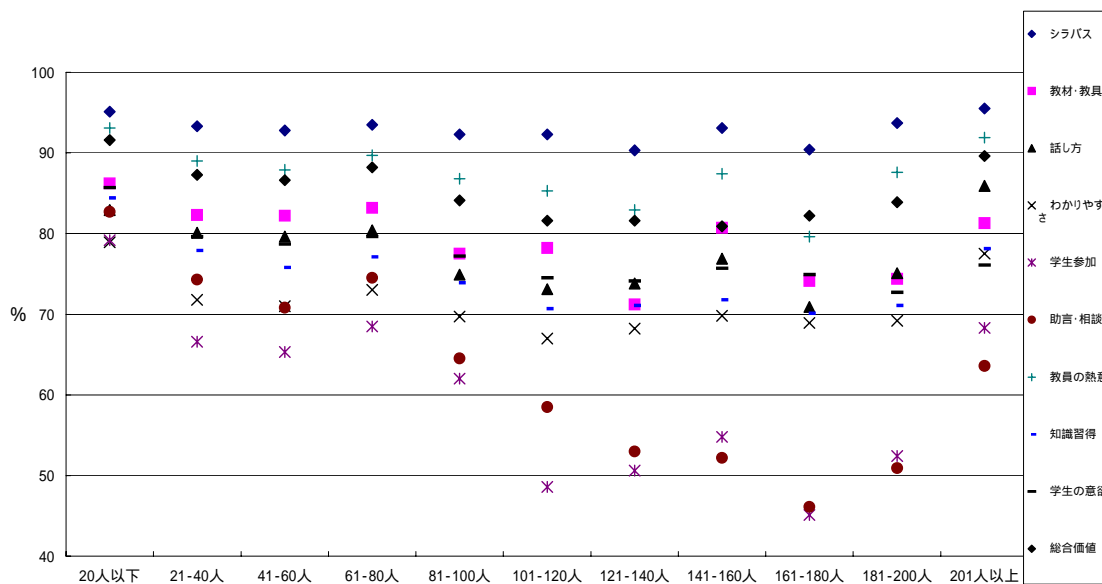


図5 肯定評価度の比較（回答者数別）

4. まとめと展望

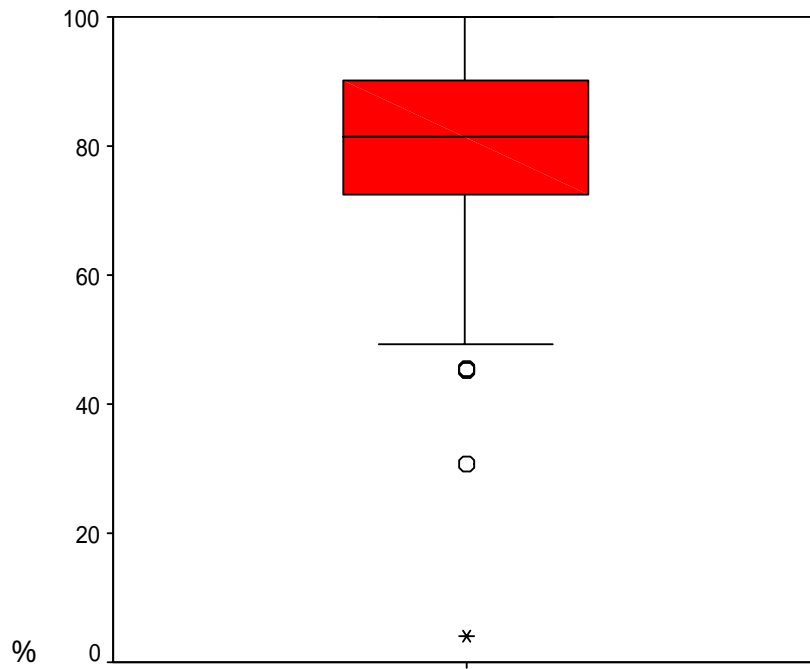
以上をまとめ、今後の展望を含めて次の3点を述べる。第一に、長崎大学の授業（学士課程・講義科目）は概ね学生から高い評価を得ているが、肯定的回答が6～7割程度の項目もある。すなわち、平成14、15年度とも、学生の積極的な授業参加や、教員との交流（相談等）面が他の側面と比べて弱い。もっとも、これらは授業形態やクラスサイズによっては達成が容易でないため、講義科目でサイズの大きいクラスも対象に含めた上での評価結果としては健闘しているといえるかもしれない。しかし、学生と教員の間で交流関係を築くことの重要性を鑑みれば、授業時間外や、対面型以外の方法も含めて交流が可能となるよう配慮する必要がある。

第二に、意欲をもって授業に取り組み、新しい知識や考え方を習得できた場合、学生は特にその授業を価値があったとみなす傾向がうかがえた。それでは、学生の意欲を喚起し、知識を習得させるためには、どのような授業を行えばいいのだろうか。専門分野、授業形態、クラスサイズ等によって、この具体的な答えは一様ではないだろうが、教員集団内で情報交換と検討を行い、共有できる有益な情報を共有していくことが、授業改善にとって必要不可欠である。

第三に、平成16年度からの授業評価であるが、大学全体で共有する評価項目（ただし、学士課程講義科目のみ適用）が従来のもので若干かわった。一つは、授業目標の達成を問う項目を設けた点である。授業を通じて何らかの付加価値、成果を得ることを、学生は求めている。その何かは授業目標に示されており、学生がそれに自覚的になることも期待している。また、授業の質を審判する指標を設けることは容易ではないだけに、目標達成度という視点を取り入れたということでもある。しかし一方で、長崎大学教員として、ゆるやかであっても共有すべき授業モデルがあると考えられる。その一つは、学生と教員の交流を重視し、オフィスアワーの設定等により学生が教員に指導・助言を求めることを容易にすることである。また、授業目標を明確にし、その達成のために授業時間外も含めた授業計画をたてて実行すること、そして明確な成績基準とともにそれらをシラバスとして示すことである。これらは引き続き評価項目として設定している。

(参考)

全学教育(講義科目)評価実施授業科目における回答率；
(評価シート回収枚数 ÷ 履修登録者数) × 100



[注]

評価項目は以下の通り。

- シラバスは、授業の目標や内容及び評価方法を適切に示していた
- 教材・教具(教科書、黒板、OHPなど)の使われ方は効果的だった
- 授業担当者の話し方は聞き取りやすかった
- 抽象的な概念や理論があってもわかりやすかった
- 授業担当者は効果的に学生の参加(発言、作業など)を促した
- 授業担当者は学生に適切な助言を与え、相談にのってくれた
- 授業担当者の授業に対する熱意を感じた
- 新しい知識や考え方などを習得でき、さらに勉強したくなった
- 自分は、この授業に意欲的に取り組んだ
- 総合的に見て、この授業は自分にとって価値があった

本報告で扱う授業科目は全学教育科目と専門教育科目の両者を含む。詳しいクラス数の構成比は以下の通り。1クラスにつき複数回評価が実施されている場合も、そのまま重複を除くことなく扱っている。ただし、実施率の算出にあたっては、重複を除いた実施クラス数(894クラス)を、学士課程の全開講クラス数(演習等の講義形態以外のクラスを除き、また夜間主や非常勤講師担当クラスを含む)で除した。

	クラス数	パーセント
全学教育(講義)	142	15.0
教育学部(講義)	149	15.8
経済学部(講義)	91	9.6
医学部医学科(科目用)	10	1.1
医学部医学科(教官用)	41	4.3
歯学部(講義)	32	3.4
薬学部(講義)	38	4.0
工学部(講義)	239	25.3
環境科学部(講義)	81	8.6
水産学部(概論・基礎)	45	4.8
水産学部(コース)	43	4.5
医学部保健学科(講義)	35	3.7
合計	946	100.0

サイズごとのクラス数の構成比は以下の通り

	クラス数	パーセント
20人以下	194	20.5
21 - 40人	212	22.4
41 - 60人	240	25.4
61 - 80人	144	15.2
81 - 100人	81	8.6
101 - 120人	40	4.2
121 - 140人	13	1.4
141 - 160人	8	.8
161 - 180人	6	.6
181 - 200人	5	.5
201人以上	3	.3
合計	946	100.0